

また繪畫や音樂の話もする。乾き易い、冷い批評かになり易い私共の心を高尚な藝術の力で補ひ養つてゆこうといふのです。

今夜は丁度春まだ浅い雨の夜で、窓硝子のぼん

と曇つて居るのも一入静かな落ついた感じがします。二番目の窓際にアスパラガスの鉢と並べて置いた私の丹精のスノウドロップスの只一輪くつきりと白いのがさつきから目ににつきます。

机邊だより

倉橋惣三

人形遊びの實驗

(ダルチ NSKA 女史)

一、人形は教育上にどんな

價值があるか

子供の人形遊びは、教育上いろいろな利益のあることは、今更申上げるまでもないことであります。子供の精神や感情や、其の眼や指端などの感覺の發達を助けてゆく點では、圖畫と相比やり

することが出来ます。たゞ圖畫は主として、觀察力や注意を豊富にするに對して、人形は人を愛し人を重じ、人に注意する感情を養ふことが主なる利益となつて居ます。

又、吾々が兒童を研究する上にも、人形遊びはいろいろな便宜を與へて呉れます。例へば、子供が人形を持ちました時に、どういふ遊び方をするかといふことを注意しますと、人形に對する其の子供の態度なり、心の働き方なりを知ることが出

來、且つ子供は一般に、どんな人形を好むもので
あらうか、人形に對して、どんな希望を持つてゐ
るかといふやうなことも、容易に知ることが出來
ます。

心理學者及び兒童研究家として有名なスタンレ
ーホール (Stanley Hall) やサリー (Sally) 等は夙に

此の方面に注意して、多くの益ある研究を發表さ
れてゐます。茲に御紹介しやうとする研究は、ボ
ーランド人の兒童に就き、質問法に依つて實驗し
た結果であります。

子供と云へば、直ぐ人形が聯想されます。併し、
子供と人形は密接な關係を持つて居るものであり
ます。人形が子供の玩具として用ゐらるゝやうに
なりましたのも、餘程古くからで、古代埃及に於
ける石棺や、伊太利の舊都や、羅馬の古墳から子
供の體と共に、いろ／＼な人形が發掘されるこ
ろを見ましても、少くとも其の時代前から人形遊

びの行はれて居ましたことは明確であります。然し
さういふ人形の歴史上の研究は後にして、茲では
現在に於ける人形遊びの研究に移ります。

二、此の實驗に用ゐた質問の方法

此の實驗では、子供に次の質問を與へて、それ

ぞ回答を求めたのであります。

(一) 人形を御好きですか。人形遊びをなさいま
すか。あなたの人が名をつけましたか。あなた
たの人が善い子ですか。あなたは人形を懲し
ますか。どうして懲しますか。あなたの人がは
どんなど病氣をしましたか。

(二) あなたは人形に着物を縫つて上げますか。
人形の着物を洗濯なさいますか。人形に御湯を
つかわせますか。あなたの人が上衣と帽子を
幾枚御持らですか。さういふ着物は誰が御作り

なさいますか。

(三) あなたの 人形は何を召上りますか。貴方が
散歩なすつたり御用に行らしやる時は、人形を
どうなさいますか。

(四) あなたは白い髪の 人形と、黒い髪の方と、
陶器の人形と紙人形と、大きな方と小さな方と、
動く人形と御話をする人形と、どちらが御好き
ですか。

(五) あなたはこれまでに、紙人形や、布の人形
や、木の人形を持つて遊んだことがありますか。
(六) あなたの人形は生きてゐますか。人形はあ
なたの云ふことが聞こえますか。そしてあなた
の怒つたり、可愛がつたりすることが判ります
か。

(七) あなたの 人形が壊れると悲しいと思ひます
か。更りの人形を戴けばいいと思ひますか。
(八) あなたは、もつと小さな子供であつた時と

今と、どちらが人形を好きでした。又、他所の
人と一緒にあなたの 人形を持つて遊ぶことが好
きですか。貴方は人形と、どんな遊びごとをな
さいますか。それを皆云つて御覽なさい。
(九) あなたは古くなつた人形や、壊れた人形を
どうなさいますか。
(十) あなたは何故人形遊びを續けてなさらない
のですか。

三、質問に答へた子供のいろ／＼

この質問に答へた子供は、總數百八十二人で、ボ
トランドの都會と田舎との、さまへんな地方の子
供であります。其の中には、ずい分貧しい子供も
ゐましたけれども、然し農家の子供は一人もゐな
かつたのです。そして店で賣つて居る人形を持つ
て居る子供は一人もなく、皆、手製の人形であり
ましたので、甚しきは手製の人形の外は、見た
こともないといふやうな子供も、二三人は居たの

であります。又、十歳までは人形遊びといふものを知らなかつた子供すらもあつたのです。而も特に其の子供の性質からではなく、全く家庭の境遇から、さういふ可憐な生活状態に居た爲めであるといふことは、子供の答に依つて知ることが出来たのです。例へば「私はお人形さんと遊ばれないので、お母さんが可けないと仰しやるから。」とか「私が人形を持つてゐるとお母さんが厭な顔をなさるので。私がもう大きくなつたのだから、お母さんの御手傳をしなければいけないと仰しやつたのです。」といふやうなのが、即ちそれであります。

斯ういふ子供らしいとは云へない答へを僅に九歳や十一歳の子供から聞くといふことは、誠に悲むべきことで、家庭教育の上に餘程重大な事柄であらうと思はれます。

此の百八十二人の子供を年齢別にしますと、

女兒　自五歳至六歳

十二人

自六歳至七歳

廿九人

自七歳至八歳

卅四人

自八歳至九歳

廿四人

自九歳至十歳

十八人

自十歳至十一歳

廿五人

自十一歳至十二歳

十九人

自十二歳至十三歳

二人

自十三歳至十四歳

八人

男兒　自十歳至十一歳

であります。

四、各の質問に答へた數と其の比
其の數を更らに各の質問の題目に區別して「且つ總數との比をとりますと、

答

數

比

人形を好むもの
人形を持つて遊ぶもの
人形に名をつけたもの

一八〇 一〇〇●〇
一五〇 八三・三
一八〇 一〇〇●〇

人形を罰するもの
人形の病を治すもの
病の名を答へたもの
人形の着物を縫ふもの
人形を湯に入れるもの
着物を洗濯をするもの
人形の下着を持つもの
人形に食を與へるもの
人形に御祈りをするもの
人形を散歩に連れて行くもの
宅に置いて行くもの
白い髪の人形を好むもの
黒い髪の方を好むもの
大きな人形を好むもの
小さな方を好むもの
陶器の人形を好むもの
布の人形を好むもの

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|-----|----|---|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 四 | 三〇 | 二〇 | 八〇 | 三〇 | 一五〇 | 一七 | 六 | 一二〇 | 一五〇 | 九七 | 二〇 | 三九 | 九四 | 六〇 |
|---|----|----|----|----|-----|----|---|-----|-----|----|----|----|----|----|

| | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 三三·三 | 五二·二 | 二一·六 | 六六·六 | 二一·二 | 五二·八 | 八三·八 | 六六·六 | 三三·三 |
| 二一·二 | 六六·六 | 二一·一 | 六六·六 | 二一·一 | 六六·六 | 三三·三 | 九三 | 六三·八 |
| 二一·一 | 四四·四 | 二二·一 | 四四·四 | 二二·一 | 二二·一 | 八三·三 | 一六·六 | 八三·三 |
| 二一·一 | 二二·一 | 二二·一 | 二二·一 | 二二·一 | 二二·一 | 一六·六 | 一六·六 | 一六·六 |
| 二一·一 | 二二·一 | 二二·一 | 二二·一 | 二二·一 | 二二·一 | 一六·六 | 一六·六 | 一六·六 |

ゴム製の方を好みの
白い顔の人形を好みの
紅い顔の方を好みの
紙人形を持つて遊ぶもの
人形は生きて居ると答ふ
人形が壊ると悲しと答ふ
壊れば修すと答ふるもの
人形を餘り好まないもの
人形を他人に借すを好み
壊れた時の處分法を答へ

五、男の子供と人形遊び

| | | | |
|--|------|------|-----|
| ゴム製の方を好むもの | 二七 | 一五〇 | 四・四 |
| 白い顔の人形を好むもの | 二八 | 一六〇 | 四・四 |
| 紅い顔の方を好むもの | 三一 | 一六 | 四・四 |
| 紙人形を持つて遊ぶもの | 三〇 | 一〇 | 四・四 |
| 人形は生きて居ると答ふるもの | 一七 | 一七 | 四・四 |
| 人形が壊されると悲しと答ふるもの | 七五 | 九・三 | 四・四 |
| 人形を餘り好まないもの | 一二〇 | 六六・六 | 四・四 |
| 壊れれば修すと答ふるもの | 九四 | 五一・六 | 四・四 |
| 人形を他人に借すを好まぬ者 | 一三四 | 五二・二 | 四・四 |
| 壊れた時の處分法を答へるもの | 四九 | 七四・四 | 四・四 |
| 五、男の子供と人形遊び | 二七・二 | 二七・二 | 四・四 |
| 上に掲げました總數の中で、男兒は僅に二人で、共に十歳から十一歳までの年齢でありました | 二八 | 一五〇 | 四・四 |
| が、二人とも非常に人形が好きでした、然し男の子供はどうしても自分の人形を持つて遊んで居るのを他の友達に笑はれないだらうかと氣遣つて居ると答へ、且つ幼少な時分よりは段々人形を好み | 二九 | 一五・〇 | 四・四 |

ないやうになつたと答へたのであります。二人とも陶器の人形を好みと答へましたが、其の一人は白い髪の人形を好み、他の一人は黒い髪の方を好みと答へました。尙ほ一人は人形の下着を持つて居り、人形を床に入れたり、お祈りをしたりする

と答へました。勿論此の二人の答へから決論する

譯にはゆきませんけれども、一般に男の子供は、人形遊びをすると、からかはれたり、女らしいと云はれまいかといふ懸念を持つて居るといふことは疑ない點であらうと思はれます。

此の質問に答へた子供は、概ね人形を愛し、そして其の人形の名を答へたのであります。その中で一寸變つた名は「ヒルデブラント」であるとか、「ミミ」であるとか、「ソリ」であるとか、「バメラ」であるとか「オフェリヤ」と云ふやうな名で一人の男兒は英國の勇士の名「アリス」(Alice)と呼んだのがあります。それは何處から得て來たものかと

調べますと、曾てお母さんから其の人の物語を聞いたことがあるのでそれを覚えて居て、人形に附けたものであつたのです。亞米利加の子供は、自分の友達なり知人なりの名を、よく人形に附ける習慣があるさうであります。

六、人形の懲罰と病氣の手當

女兒の五分の一は人形を懲すと答へましたけれども、男兒の方には一人もなかつたのです。云はゞ女の子供は人形のお母さんと云ふ地位に立て、屢々人形を意見するものと思はれるのであって、其の方法の中で、人形をなぐると答へたものが四十一人で、他は床の中へ入れたり、留守番をさせたり、物置の中へ入れたり、お飯を與へなかつたりする方法であります。大體に自分の受けた経験からするものと思はれるのであります。

病氣の名はいろ／＼違つたのがありましたが、其の病名は何處から得て來たかと云ひますと、そ

れには（一）経験から知り得たもの、（二）人から聞きいて知つたもの、若しくは自分が想像したもの、二種に大別することが出来ます。経験から得たものは、實際人の病氣の場合にする手當と同様の方法を施するもので、例へば眼を病つて居るとすれば、繩帶を施すとか、眼を洗つてやるとか。咳の出る場合には、その藥を呑ますとか、打傷の場合には水で冷すといふやうに、それくに實際の場合に合つた手當法を答へるのであります。

第二の種類は、室扶斯のやうな熱病であるとか、肺病であるとか、脳病であるとか、足を折つたとか、首を痛めたとか云ふやうな病名を付ける場合で、此等は皆實際の経験から得たものではないので、従つて其の治療法に就いては何も答へないものであります。

七、病氣に特殊な注意を持つ子供
（實驗者を指す）の子供は四歳半の年齢であります。

りましたが、屢々私の傍に来て、室扶斯や痘瘡や猖狂熱や癌腫のやうな病氣の時は、どうしたらばよいかと問い合わせて來まして、いつも非常な注意を以て私の云ふ處を聞いて居ました。そして自分で病室の溫度を計つたり、食物を選擇したすることは極めて厳格で、病室には誰れも入れなかつたり、戸をあら／＼しく閉めるのを止めたり、自分も歩くのに、爪尖きで歩いたり、空氣の流通に注意したりするやうな細い點も心を用ゐ、且つ室の隅に人形の床をのべて、病院を作り、自分で其處を見舞つて、茶やソップを與へたりしました。これは他の兒童に比して餘程特殊な遊び方と云つてよろしからうと思はれます。

此の試験者たる子供の中には「私の人形は一度もありました、それは自分が一度も病に罹つた經

曾て人形を持つことを許されなかつた子供が、其のお母さんが病氣になつた爲めに、初めて人形を與へて置きますと、後にお母さんの病氣が慄つて、初めて子供の室に行つて見ます、と、醫者と病人とのいろ／＼な對話を、人形の前で獨言して居るのを見たといふことでありまして、お母さんの病氣になつた時から、人形と病床の眞似をして遊ぶのを唯一の樂みとするやうになつたのであります。

八、人形と衣服と食物とお祈
女兒の大部分と、一人の男兒は人形の着物を縫ふと答へたのでありまして、これは裁縫を課する上に非常な便宜を得らるゝこと、思ひます、其の中で人形の上着を縫ふと答へたものが百五十人の多きを示しましたが、下着を縫ふと云ふものが僅に九十七人で、而もそれが皆田舎の子供であつたといふことは、餘程注意すべき點であると思はれま

す、これは都會の人々は下着などは上着で隠して居る爲めに、子供の注意を惹かないのであらうと思はれます。
人形に着物と食物を與へると答へたのが、百五十九人の多數を示しましたが、顔を洗ふとか髪を洗ふとか、湯を使はせるとか云ふのは、僅に二十人であつた、而も極く幼少な子供であつたのです。これに依つて見ますと、比較的年長の子供には、人形の顔を洗つたり何かしますと、顔が壊れたり美しい頬の色が落ちたりするといふことを知つて居ると云ふことが出来ます。中には湯を使ふ事が出来る人形を好みと答へた女兒もありました。多數の兒童を皆人形を床に入れたり、着物を着せたりすると答へたけれども、お祈をすると答へたのが僅に七人で、その理由には「私は人形にお祈をしやうと思つたことはありません、お祈りをしますと、面白くなくなつて來ます」と答へたの

であります。

散歩に出る時には、キツト人形を連れて行くとの新しいのを被つて居る時には連れて行くと答へたのが僅に十七人で、而も綺麗な着物や、帽子の子供も些くはなかつた處を見ますと、この場合に、人形の着物の美貌が餘程關係して居るやうであります。此の衣服の點では、田舎の子供と都會の子供との間に、非常な相違があつて、都會の子供は衣服を嚴しく云ふよりも、寧ろ空氣の新鮮に注意するといふ傾があります。

九、子供はどんな人形を好むか
人形の大きさに就いては、大きな方を撰ぶ子供が八十人、小さな方を撰ぶのが二十人、中位の大さのものを撰ぶのは、略、大きな方と同じ位であります。

白い髪の人形を撰ぶ子供が百五十人であつたのに、黒い髪の方は僅に三十人であつて、其の差は

驚くべき相違であります。

白い顔の人形を好むのが二十七人で、主に年少の子供であつたのです。其の理由には、可愛らしいとか、上品であるとか、優美であるとか、いふやうな意味から来て居るもので、其の答を發した子供は、多く舍田の子供である處を觀ますと、自分の顔が餘り亦過ぎると思つて居る爲めではなからうかと思はれます。

自動人形は、獨りで立つたり、眼を開いたり、することの出来る人形を好む子供は多かつたけれども、歩いたり、手を動したり、物を云つたりする人形を好むのは少なかつたのです。
人形は生きて居るものと信じて居る子供は僅に十七人で、而も皆極く幼少な子供であつたのです。然し「私の人形は矢張り人形なんですけれども、私の云ふことが判つたり、聞いたり見たりすることが出来ると思ふことがあります」とか或は「人

形と一緒に遊んで居ますと、人形は私の云ふ事が判り、お腹が減つたり、寒くなつたりすると思ひます。」と答へた多數の兒童があつたのです。

十、人形が壊れた時の悲み

自分の最愛な人形を壊すといふことは、子供にとつては、此の上もない悲みであります。私（實験者）自身の子供は、勿論赤兒の時分から幾つともなき人形を、自分の手で壊して來ましたが、それは未だ人形を愛する心の起きない間で、三歳頃になつて、綺麗な人形を興へましてから、其の人が唯一な、そして最も親しい友となつて來ました。然るに三歳七ヶ月の時に、其の人形の顔を潰したことがありました。その時に泣きながら私の傍へ駆けて來まして、「お母さま、此の子は死にはせないでせう。生きて居るでせう。」と震へながら私の返事を迫るのでした。

そして「こんな美しい目をして居るのよ。一緒にお床へ入りませうね……お母さま、この子は生きて居るでせう。よ。」と云ひながら、其の人形を私の膝に置いたまゝ、再び其れを見やうともせず、後になつて更りの新しい人形を興へましたけれども、どうしても子供の悲みを和げるには足りませんでした。然し一ヶ月後になつて、漸く前の人形を忘れて、後の人形を愛するやうになつて來たのであります。然し、もうそれからは、人形を壊しましても、先きのやうな愛着の情はなくなつて「可いのよ。更りのを買つて戴くの。」と云ふやうになつて來ました。兎に角、人形が食をしたり、眠つたり、感じたりするものであると云ふことを、刹那的に信ずる場合があるのであります。且つ人形を壊した時の子供らしい悲みを云ふものは、程度から云へば激しいけれども、時間的には短いもので、普通には更りの人形を貰へば、直ぐに慰

められる場合が多いのであります。

十一、人形が壊れた時にどうするか

人形が壊れた時に、どうするかと云ふことを答へた子供が全體に四十九人で、其の中の六人は立派なお吊をして、埋葬すると答へ、十人は捨てると答へ、五人は人形を病院へ送ると答へ、一人は爐に入れて焼くと答へ、四人は召使に與へると答へ、二人は孤兒院へ送ると答へ、一人は貧民の子供に與へると答へたのであります。

多數の子供は、自分の人形を他人の手に渡すのを、非常に嫌がるもので、其の情を表した子供は、七割四分の比をなして居ます。これは全く情けの本能から來るものであらうと思はれるのであります。

十二、子供は人形遊で何を表すか

子供が人形遊で表はすものは、病院、學校、葬式、結婚、訪問、食事、衣換、散歩等で、これ等

は皆、子供が自分の見聞した事物を、戯曲的に再現することを好むものであることを證據立てゝ居るものであります。

又、人形遊は、いろ／＼な意味で、子供の心がどれだけ境遇の影響を受けて居るものであるかといふことを表すものであります。貧しい家の子供に都會の賤しい町に住んで居る子供は、燈火を知らなかつたり、花であるとか、樹木であるとかいふものの、想像が鈍かつたりしますが、これに反して、上流の家庭に育つて、大切に扱はれて居る子供は、澤山の書籍を持つて居たり、且ついろ／＼な家具などを見る機會が多いだけに、人形遊をする場合に、遺憾なくそれを現して行くものであります。子供の特性を研究することが出来ると共に、想像の研究を助ける點がまして妙くはなからうと思ふのであります。(完)